

## 令和6年度第2回山形県特定鳥獣保護管理検討委員会 発言趣旨

1 日時 令和6年10月17日（木）午前9時30分～12時

2 開催方法 オンライン（Zoom）

3 委員（敬称略）

鈴木正嗣（岐阜大学）、江成広斗（山形大学）、山内貴義（岩手大学）、丸山哲也（栃木県林業センター）、遠藤春男（山形県猟友会）、片桐弘一（山形県獣医師会）、佐藤由英（山形市、豊後真の代理）、野口勝世（最上町）、富取千代子（米沢市）、高橋修也（鶴岡市）、石山栄一（山形県みどり自然課）、門脇健（山形県農村計画課）

4 発言趣旨

### （1）第2期山形県ニホンジカ管理計画（素案）について（協議）

（事務局）

説明

#### 指定管理鳥獣捕獲等事業について

（丸山委員）

- ・ シカのような低密度個体は有害捕獲ではなかなか効率が上がらないので、1頭当たりの単価は高くなるかもしれないが、この事業を活用して積極的に捕獲を進めてほしい。

（江成委員）

- ・ 事業実施にあたり、低密度時には捕獲技術が必要であり、増加時にはそれに対応できる体制が必要なので、事業の担い手の育成が必要である。

#### モニタリングについて

（丸山委員）

- ・ イノシシの糞塊調査のときに、シカも一緒にできるので、同時に実施することを検討してみてもどうか。

#### 錯誤捕獲について

（江成委員）

- ・ くくりわなの導入については、具体的な判断基準や導入までのステップの記載を検討したほうが良いと思う。

（事務局）

- ・ 第2期計画の中で、もう少し時間をかけて検討したい。

（鈴木委員）

- ・ 他県であるが、錯誤捕獲の放獣作業中に死亡事故があった。技術的に安全性を担保できる錯誤捕獲対応体制を検討してほしい。

#### 林業被害について

（江成先生）

- ・ シカの生息状況が増加相に入っている可能性がある状況であり、被害が発生していないとは到底思えない。モニタリングの在り方、被害評価をどうするか、それと同時に基準に達したときの対応について明示しておくべきタイミングに来ていると思う。検討の上、この度の計画に追加できるなら追加していただきたい。

## (2) 第2期山形県イノシシ管理計画の進捗状況について（報告）

（事務局）

説明

### 捕獲について

（江成委員）

- ・ハンターマップなどで、どういう地域で捕獲されているのかを共有しておくべきである。捕獲数を上げるということだけが目標になると、捕りやすいところだけで捕ってしまう。本来捕獲すべきハイリスク地域でどれだけ捕獲されているのかを評価すべき。

（丸山委員）

- ・出猟カレンダーで、SPUE（目撃効率）、CPUE（捕獲効率）などを集計して分布図として表すとどの辺りで捕獲されているかわかってくるので、今後の対策に繋がっていくと思う。

### 侵入防止柵等の被害対策の普及について

（江成委員）

- ・被害対策について、基本的に侵入防止柵を含めた被害防除を集落レベルで行っていくことが重要。以前よりは対策が少しずつ普及していると思うが、まだまだの地域もあるので、被害対策の普及状況に係る統計的なデータがあれば共有して、普及啓発に活かしてほしい。

## (3) 第4期山形県ツキノワグマ管理計画の進捗状況について（報告）

（事務局）

説明

### 錯誤捕獲について

（山内委員）

- ・錯誤捕獲の増え方が尋常でない。わなの数が増えているかなど原因を調べて何らかの対策をとるべき。

（江成委員）

- ・錯誤捕獲が令和4年から令和5年にかけて増えている原因について、調査自体が令和4年から始めたばかりなので、回答してくれた市町村の数が増えたということはないか。まずは情報把握ということで調査を始めたもの。市町村の回答数を見て、その上で錯誤捕獲が多くなった理由が回答率によるものではないのなら対策を検討すべき。

（丸山委員）

- ・錯誤捕獲の分布図を作成してみてもどうか。イノシシの捕獲分布と見比べると何か対策が見えてくるかもしれない。

### 指定管理鳥獣対策事業について

（山内委員）

- ・クマの指定管理鳥獣の指定により活用できるようになった政府の交付金により、どのような事業を行うのか。

（事務局）

- ・今年度は、人とクマの棲み分け対策として藪の刈払いに係る支援などを行っている。来年度以降については、まずは生息状況調査の再構築を行いたいと考えている。生息状況がもっと明らかになってから、捕獲についても検討しようと思っている。

### クマの生息状況のモニタリングについて

（山内委員）

- ・環境省のガイドラインの補足資料によると、緩衝地帯での個体数管理が必要とされているので、捕獲するという方向にはなっていくと思う。それに対するモニタリングになると

思うが、環境省でも考えが変わってきているので、情報収集しながら段階を踏んで計画した方が良いと思われる。

(江成委員)

- ・ 生息動向は、単年だけデータを取っても評価できず、何年間か集まってきて初めて評価できるので、どういうステップを踏んでモニタリング方法を変更するのか、全体のスケジュールを検討してほしい。

#### 市街地出没対策について

(山内委員)

- ・ 昨年はクマの市街地出没がかなり問題になったが、何か対策をとっているか。

(事務局)

- ・ 明日10月18日に、クマが市街地出没した際に実際に対応する県、市町村、警察の職員と、市町村の鳥獣被害対策実施隊隊員を一堂に会した研修会を行う。内容は適切な対応を学ぶ講義と、机上模擬訓練などとなっている。

(山内委員)

- ・ 市街地出没対策はかなり重要なところだと思うので、次期計画には入れるべきと思う。今後進捗状況も教えてほしいし、他県の対策について共有した方が良い。

(江成先生)

- ・ 市街地出没の対策マニュアルについて、前回の会議で、県がまずマニュアル作成して、それを市町村に示していくべきという話があったが、その進捗状況はどうか。

(事務局)

- ・ 鳥獣保護管理法の第38条の改正の関係で、来年度、環境省で市街地出没対応マニュアルの改正に係る費用を概算要求している。改定後の環境省のマニュアルを参考にして、県において市町村のマニュアル作成の指針を作成したいと思っている。

(丸山委員)

- ・ 特に警察との連携が大変重要になってくると思うので、マニュアル作成する段階で、県警と連携しながら一緒に作っていった方が良いと思う。

#### クマによる農業被害について

(江成委員)

- ・ 令和4年から令和5年にかけて、被害面積は概ね2倍弱だが、被害額は4倍以上増えている。昨年はクマの大量出没年ではあったが、この増え方を見ると被害が出た農作物の種類が変わったのではないかと思う。被害の特徴はどうだったか。

(事務局)

- ・ 最も量的に被害が増えたのはデントコーンで、前年の令和4年に比べて4倍以上増えている。原因としては、ブナの凶作等によりクマが山から下りてきたのもあると思うが、侵入防止柵がしっかりクマに対応したものになっていない場合が多かった。
- ・ あとは設置のタイミングで、被害が出てから柵を設置しているようなところもある。研修で先生方から御指摘あったが、クマは味をしめてしまうと侵入防止柵が効かなくなるといことがあるので、被害がどういうところで発生するのか、マップを作成するなどして予測しながら、あらかじめの対応をとることが必要と考えている。

#### わなにかかったシカやイノシシがクマに食べられている件

(鈴木委員)

- ・ 最近学会でも話題になっているが、わなにかかったシカとイノシシが、クマに生きたまま食われていたという事例があちこちで確認されている。わなをかけた捕獲従事者や近隣住民が危険であるため、全国的に問題になり始めている。

#### (4) 第4期山形県ニホンザル管理計画の進捗状況について（報告）

（事務局）

説明

##### 市町村における群数のダブルカウントについて

（丸山委員）

- ・ 群数の調査だが、市町村ごとに調査しているとする、市町村界を跨いで同一の群れをダブルカウントしている可能性もあるか。

（事務局）

- ・ 可能性はある。

（江成委員）

- ・ 市町村間で共有するという仕組みを作っていればダブルカウントは減っていくと思うが、市町村担当者レベルでその行動圏まできちんと把握しているか、もしくは群れの名前が何となくついてはいるもののそこまで識別ができてるかという、そうではないと思う。地図化していけば改善するとは思いますが、それでも大きな改善はなかなか難しいのではないかと。
- ・ 群数の管理はサルの管理の基本ではあるが、クマのようにゾーニング的な視点も含めていかないと把握が追いつかないと思う。特に市町村界は山奥が多かったりするので、もしかしたらゾーニングのようなもう少しざっくりとした方法に切り替えて把握していくというのもありえるかもしれない。

##### 群れ捕獲の在り方について

（江成委員）

- ・ 群れ捕獲について、捕るべき地域で捕られているか、捕るべきではない地域で捕られていないかの評価を最低限やるべきである。また、大型わなについて、どこで導入されているのか把握すべきである。大型わなでサルを捕りきれないことによって人身被害に発展しているケースが全国的に増えて大問題となっている。
- ・ 加害レベルを下げるのは難しいと全国的にわかってきているので、加害レベルが高まりきってしまったような場合には、群れ捕獲を積極的に行う必要性を市町村と共有しておいた方が良い。